

## カテゴリー

---

脳卒中

## タイトル

---

左利き患者の失行について

Apraxia in left-handers.PubMed Goldenberg G, Brain. 2013 Aug;136(Pt 8):2592-601

## なぜこの論文を読もうと思ったのか？

---

- ・左利きの患者を担当することがあったので、左利き患者の高次脳機能に興味があったため。

## 内容

---

### 方法

- ・左利きの脳損傷患者 50 名(左半球損傷 28 名、右半球損傷 22 名)
- ・検査は麻痺がある場合は麻痺のない方の手で、麻痺がない場合は患者自身がどちらの手を使うか決めた。
- ・検査は以下の 3 つを行った。
  - ①意味のないジェスチャーの模倣(手の位置と指の形の模倣をそれぞれ別に行う)
  - ②道具を使用するパントマイム
  - ③実際の道具の使用。

## 結果

・相当数の左半球の損傷患者で失行が認められた。左より右半球の損傷で有意に多く見られる障害は手の位置の模倣のみであった(Table 2)。

**Table 2 Apraxia and laterality of lesions**

	Patients with left brain damage, n = 28	Patients with right brain damage, n = 22
Patients classified apraxic on:		
Imitation of hand postures	5	10*
Imitation of finger postures	8	9
Pantomime of tool use	11	8
Tool use	7	5

\* $P < 0.05$ ; all other comparisons non-significant ( $X^2$  test).

・パントマイムと道具の使用の障害は失語患者で有意に多かった。左半球の損傷で失行がある患者は全て失語を持っていた。また失行があって失語がない患者は全て右半球の損傷であった(Table 3)。

**Table 3 Apraxia and aphasia**

	Patients with aphasia, n = 29	Patients without aphasia, n = 21
Age (range)	60.6 (37–78)	52.8 (23–79)*
Patients classified apraxic on:		
Imitation of hand postures	7	8
Imitation of finger postures	10	7
Pantomime of tool use	16	3**
Tool use	10	2***

\* $P = 0.053$ ; \*\* $P < 0.01$ ; \*\*\* $P < 0.05$ ; all other comparisons non-significant ( $X^2$  test).

- ・手の位置と指の形の模倣の障害は半側無視がある患者でより多く見られた(Table 4)

**Table 4 Apraxia and hemi-neglect**

	Patients without neglect, <i>n</i> = 34	Patients with neglect, <i>n</i> = 16
Age (range)	58.5 (40–78)	54.6 (23–79)
Patients classified apraxic on:		
Imitation of hand postures	6	9*
Imitation of finger postures	7	10*
Pantomime of tool use	11	8
Tool use	6	6

\**P* < 0.01; all other comparisons not significant ( $X^2$  test).

- ・先行研究のデータも元に解析を行った結果、右利きで右半球損傷の患者は左利きで右半球損傷の患者より半側無視の割合が多かった。左利きで右半球損傷の患者で半側無視がある患者が最も模倣の点が低かった(Table 5)。

**Table 5 Apraxia and hemi-neglect in right-handers and left-handers**

		Finger: mean (SD)	Hand: mean (SD)
Left-handers LBD	22 no neglect	17.3 (3.5)	18.3 (2.6)
	6 neglect	15.0 (3.8)	18.3 (1.6)
Left-handers RBD	12 no neglect	17.5 (2.2)	17.3 (3.3)
	10 neglect	13.7 (5.2)	13.7 (5.2)
Right-handers RBD	14 no neglect	18.3 (1.4)	19.0 (1.1)
	36 neglect	15.5 (3.2)	18.7 (1.8)

Maximum score for imitation of finger and of hand postures is 20; the fifth percentile which constitutes the cut-off for classifying patients as apraxic is 18 for hand and 17 for finger postures.

LBD = left brain damage; RBD = right brain damage.

## 考察

・先行研究から左利きでは右利きより両側の脳半球の損傷で失行が認められることが多い。左利きの患者の失行は右利き患者の失行より軽い。また左利き患者の方が早く回復する。

・手の位置の模倣では右半球の損傷でより頻繁に見られ、そのような患者の多くに半側無視が見られた。これらのことから手の模倣の障害は右半球が利き手(左手)を支配していることよりも空間に関与していることによるかもしれない。

パントマイムや道具の使用と失語との関連について考えうる説明として言語と道具の使用はいずれも意味記憶にアクセスすることが挙げられる。

## 私見・明日への臨床アイデア

---

・高次脳機能と利き手に関連している可能性があることが分かった。今後、臨床で左利きの患者の場合はこのことを考慮しつつ高次脳機能の評価と解釈を行いたい。